

令和5年度 ホソカワ粉体工学振興財団 KONA 賞ならびに研究助成事業のご案内

公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団

当財団は、粉体工学・技術の発展に資することを旨として、平成3年(1991年)に創設され、平成24年に公益法人に認定された財団法人で、毎年、粉体工学に関する講演討論会の開催や、英文学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版などの事業を進めると共に、大学等の研究機関に所属されている方々を対象として、主に粉粒体工学に関連した研究助成や褒賞、研究者育成などの助成事業を行っております。

これらの助成事業は、例年5月から募集を開始し、7月下旬に締め切られ、選考委員会での審査、理事会での承認を得て、12月に採択結果が発表されます。ご応募には、所定の推薦書あるいは申請書の提出が必要です。

助成対象や申請方法、提出締切日等の募集要項の詳細につきましては、2023年4月頃に当財団のホームページ等で公開の予定です。申請書等の必要書類は、財団ホームページ内の下記の助成事業サイト (<http://www.kona.or.jp/jp/grants/index.html>) からダウンロードいただくか、または下記にご連絡下さい。

<推薦書・申請書の提出先および連絡先>

(公財)ホソカワ粉体工学振興財団 事務局
〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1-9
TEL: 072-867-1686 FAX: 072-867-1658
E-mail: contact_zagrant@hmc.hosokawa.com
URL: <http://www.kona.or.jp>

編集後記 Editorial Note

今年は、戦争、コロナ禍、円安・物価高と厳しい状況が続いていますが、その一つとして2月24日のロシアのウクライナ侵攻はやはり驚くべき事件でした。世界では第2次世界大戦後もあちこちで戦闘や戦争が起っていますが、日本ではこの間、平和が享受されてきており、今回のロシアの隣国への侵攻は他人事ではないと思われ、改めて平和の有難さ、大切さを感じます。コロナ禍については、発生から3年近くたち、日本では7月からの第7波が猛威を振るい、8月には1日25万人を超える新規感染者が報告されましたが、その後、4回目ワクチンや若年者への接種等により減少傾向がみられ、これまでとは異なった対応がされるようになってきました。また外国為替については、本年1月の米ドル為替レートは114円台であったのが、10月下旬には151円を超え、10ヶ月も立たない間に37円以上も変わるのには余りにも急激です。10月からようやくコロナ禍による入国制限が解除され、日本への外国人観光客にとってはこの円安傾向は喜ばしい事でしょうが、日本人が海外に出る際には障壁となると共に、食料自給率の低い日本が海外から輸入する食品、原材料等が多い中、日本の物価も様々な多くの製品について急激に高騰し、大きな打撃を受けています。

これらの出来事はそれぞれが全て何等かの形で繋がっており、もはや1国の問題ではなく、政治的にも経済的にも、環境もエネルギーも資源も今まで以上に地球規模で考える必要があることは確かです。早く安定した良い連携、循環

を取り戻し、さらに改善されていくことを期待するところです。

本誌の特集に掲載させて頂いていますが、本年のホソカワ粉体工学振興財団設立30周年を記念して、ネオジム焼結磁石の開発について、開発者の佐川真人先生からご講演頂きました。この永久磁石は1982年に誕生してから40年を経てもなお世界最強の実用的な磁石となっており、日本が誇れる重要な技術の一つです。この強力磁石はスマホ等の電子機器の小型化・高性能化、電気自動車や風力発電機などの環境・エネルギー観点からもサステナブルな未来社会の構築に大きな貢献が期待できるだけでなく、将来、人間の人口以上の台数が製造される見込みもあるロボット等にも活用される可能性があるとのことで夢が広がります。この技術に対して本年2月にエリザベス女王工学賞が授与されましたが、その女王も本年9月に96歳で他界される直前まで、最長となる即位70年を全うされ、一つの時代の移り変わりが感じられます。

さて、本号の粉碎誌には、本年9月に3年振りにようやく開催が実現しました第54回粉体工学に関する講演討論会の講演内容の特集記事として、テクニカルノートや新製品・事業紹介等と共に掲載することになりました。

本誌につきまして、ご意見、ご要望等がございましたら、何なりと事務局までご連絡頂けましたら幸いです。ご寄稿も歓迎致します。よろしくお願い致します。

(T.Y.)